

5 活 用 例

(1) 高さによる気圧の違いの観察

構造が簡単で、目で見て分かりやすいため、単元の導入やまとめの段階で活用できる。

A 授業における単元の導入部分で活用する場合

- ① 簡易気圧変化測定器を、装置の名前や原理については触れずに提示する。
- ② 高さの異なる場所で、色水の位置の違いを観察させる。
- ③ ②の観察結果について、装置の原理を含めて、生徒に考察させる。

B 授業における単元のまとめの段階で活用する場合

- ① 気圧について学習した後で、簡易気圧変化測定器を、原理を確認しながら提示する。
- ② 高さの異なる場所で、色水の位置の違いを観察させる。
- ③ ②の観察結果について、生徒に考察させる。

(2) 気圧の時間変化の観測

予め、低気圧や台風の通過など、数時間程度で気圧の変化が予想されるようなときを選ぶ。

- ① ある程度の時間にわたって気圧の変化を観測するので、例えば右の写真のように、発泡スチロールの容器と氷水を使ってガラスびんの中の空気の温度を一定に保つ工夫をする。
- ② 観測にあたっては、一定時間（例えば、30分）ごとに簡易気圧変化測定器の色水の位置を記録する。
- ③ 気圧の観測の結果は、グラフ化して考察してみる。また、インターネットなどを用いて調べた天気図上の気圧の変化と比べてみる。

